

すこしの工夫で驚くほど快適に!

くらしの整理収納術



上_留袖を洋装仕立てにリメイク。結婚式の際、座った状態でも柄柄が見えるように前側は上部に配置、家紋も右肩のアクセントとして入れた。下_リメイクした手下げバッグ。それぞれ素材の異なる着物を使い、印象的に仕上げた。

今月のポイント!

「着物は捨てられない」という女性が多い。価値判断をプロに任せて活用方法を探るか、誰かのために役立てられるボランティア団体への寄付なら、気持ちの整理も付きやすい。

保存状態の判断

定期メンテで着衣、譲渡に備え デザインや費用対効果も考えて

長期保管した着物は汚れが付着していることも多い。そのまま着ることができるのか、しみ抜きが可能か、その費用など、呉服屋に状態を見てもらうのがおすすめ。思い出の品や遺品など自分の感情では冷静に判断できない着物でも、第三者の目線で冷静に判断してくれる。いずれ着るか、子どもや知人へ譲り渡す予定なら定期的なメンテナンスと考え、しみ抜き費用をかける価値はある。

しみ抜き不可の場合

着物リメイクで思い出も凝縮した逸品に

しみ抜きができない着物、譲渡する予定の無い着物は思い切ってリメイクするのも一つの方法。思い出の品をタンスに眠らせるより、身近に飾ったり使ったりと、美しさや実用性を復活できるのがメリット。写真は長年にわたり着物リメイクを手掛けて来た佐藤博子さん(酒田市)の作品。

長期保管中の着物を整理

思い入れのある着物も、気付けば長年タンスに眠ったまま…。多くの女性が悩んでいる着物の、すっきりと気持ちの整理が付く活用法、ボランティア団体への寄付の仕方とも紹介する。

状態問わず

どんな状態でも引き取り可 ボランティア団体が再活用

「酒田着物プロジェクト」では、各家庭で眠っている着物を無償提供してもらい、年1、2回定期的に販売し、売り上げを宮城県南三陸町へ復興支援金として送っている。汚れやぼつれなど着物の状態は問わず、帯や帯留め、羽織、小物なども常時募集している。実際に着用したり、和小物や傘福を作ったりする人が購入するほか、外国人観光客にも好評。次の持ち主へと着物を託し、被災地の復興にも協力できる。

《リサイクル着物 大展示販売会》

10月13日(日)10:00~15:00
会場/ 峰鷲院 (酒田市亀ヶ崎5-1-34)

團 酒田着物プロジェクト
TEL 090-1933-3736 (佐藤幸美代表)

教えてくれたのは…
整理収納アドバイザー 佐藤江理子さん

Profile / 1974年酒田市出身。(株)佐藤江理子建築工房代表取締役。二級建築士、インテリアコーディネーター、整理収納アドバイザー1級、住宅ローンアドバイザーの資格を持ち、お金のことから間取り・インテリアなど家づくりの全てを担当している。近藤典子暮らしアカデミー第4期生として「住まい方アドバイザー」の勉強中。

